

島根県の経済動向

平成29年5月分

統 第 1 0 号 の 5
平成 2 9 年 8 月 2 日

政策企画局統計調査課

一島根県の経済は、一部に弱い動きがみられるものの、 持ち直しの動きが続いている一

生産活動は全体として持ち直しの動きが続いている。雇用情勢は改善の動きが続いている。個人消費は持ち直しの動きが続いている。投資動向は持ち直しているが、このところ弱い動きが続いている。

生産活動	⇒ ~持ち直しの動き~	鉱工業生産指数（季節調整済指数）は118.0で前月比で0.9%上昇し、前年比は9.4%と2か月ぶりに上回った。 生産活動は、全体として持ち直しの動きが続いている。
雇用情勢	⇒ ~改善の動き~	雇用面は、有効求人倍率は1.59倍で前月を0.01ポイント上回り、新規求人数は18.1%と2か月ぶりに前年を上回った。所得面は、現金給与総額は1.3%と3か月連続で、きまって支給する給与は0.2%と2か月連続で前年を上回った。 雇用面、所得面とも、改善の動きが続いている。
個人消費	⇒ ~持ち直しの動き~	百貨店・スーパー販売額は3.0%と3か月連続で前年を上回った。ホームセンター販売額は▲0.2%と3か月連続で前年を下回り、家電大型専門店販売額は5.1%と3か月連続で前年を上回った。新車登録台数は8.8%と10か月連続で前年を上回った。 個人消費は、持ち直しの動きが続いている。
投資動向	⇒ ~持ち直し に弱い動き~	建築着工床面積（非居住用）は▲40.2%と、公共工事請負金額は▲14.5%と2か月連続で前年を下回り、新設住宅着工戸数は7.9%と2か月連続で前年を上回った。 投資動向は、持ち直しているが、このところ弱い動きが続いている。
企業倒産	⇒ ~倒産件数4件~	企業倒産件数は4件。（製造業1件、運輸業1件、情報通信業1件、サービス業他1件）
金融情勢	⇒ ~貸出金残高は 対前年5.6%増~	銀行預金残高は6か月連続で前年を上回った。 銀行貸出金残高は81か月連続で前年を上回った。
物 価	⇒ ~対前年0.1%上昇~	消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）は99.8となり、前年比0.1%の上昇となった。
その他 (参考)	島根県景気動向指数（CI） （平成29年8月2日公表） 法人企業景気予測調査結果 （平成29年6月13日公表）	CI先行指数は97.7となり、2か月ぶりの下降となった。 CI一致指数は110.2となり、2か月連続の下降となった。 財務省松江財務事務所が公表した現状（29年4～6月期）の景況判断BSIは、▲2.8%ポイントと「下降」超幅が縮小している。 29年度の設備投資計画は、前年度比2.0%の増加見通しとなっている。 （製造業 26.5%、非製造業 ▲52.7%）

経 済 指 標		前年同月比（%） ただし*は除く。					
		12月	1月	2月	3月	4月	5月
生産活動	* 鉱工業生産指数（季節調整済指数）	116.8	116.6	118.2	119.9	117.0	118.0
	* "（前月比）	▲ 1.4	▲ 0.2	1.4	1.4	▲ 2.4	0.9
	* "（前年同月比）	3.0	4.3	0.5	3.6	▲ 0.3	9.4
雇用情勢	* 有効求人倍率（倍）	1.52	1.53	1.54	1.58	1.58	1.59
	新規求人数	7.4	▲ 6.4	14.8	10.7	▲ 4.3	18.1
	常用労働者数	1.1	1.3	1.7	2.1	2.0	2.2
	現金給与総額	6.4	0.0	▲ 1.8	0.1	0.7	1.3
	きまって支給する給与	3.6	1.0	▲ 1.4	▲ 0.1	1.3	0.2
	所定外労働時間（製造業）	▲ 10.8	▲ 1.0	▲ 12.5	▲ 5.5	2.4	▲ 1.0
個人消費	百貨店・スーパー販売額	0.4	2.4	▲ 4.6	0.9	3.7	3.0
	ホームセンター販売額	2.8	▲ 1.4	3.7	▲ 0.5	▲ 2.6	▲ 0.2
	家電大型専門店販売額	▲ 2.4	▲ 4.4	▲ 1.1	2.4	6.7	5.1
	乗用車新車登録台数	10.1	2.5	6.0	12.6	15.8	8.8
	出雲空港利用者数	7.4	3.9	▲ 0.7	12.9	8.4	12.0
投資動向	建築着工床面積（非居住用）	▲ 62.5	▲ 31.7	3.1	14.2	▲ 52.5	▲ 40.2
	公共工事請負金額	▲ 11.8	14.2	137.7	30.2	▲ 45.8	▲ 14.5
	新設住宅着工戸数	▲ 42.9	▲ 15.9	2.0	▲ 32.7	1.1	7.9
企業倒産	* 企業倒産件数（件）	3	0	5	3	1	4
	* 負債総額（百万円）	165	0	256	92	94	645
金融情勢	銀行預金残高	1.8	0.6	1.7	1.7	1.7	1.8
	銀行貸出金残高	4.7	4.4	4.8	5.3	6.2	5.6
物 価	* 消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）	99.4	99.4	99.0	99.1	99.5	99.8
そ の 他	* 景気動向指数（CI先行指数）	83.1	86.9	98.3	96.5	99.1	97.7
	* 景気動向指数（CI一致指数）	118.6	111.9	105.8	126.6	112.9	110.2

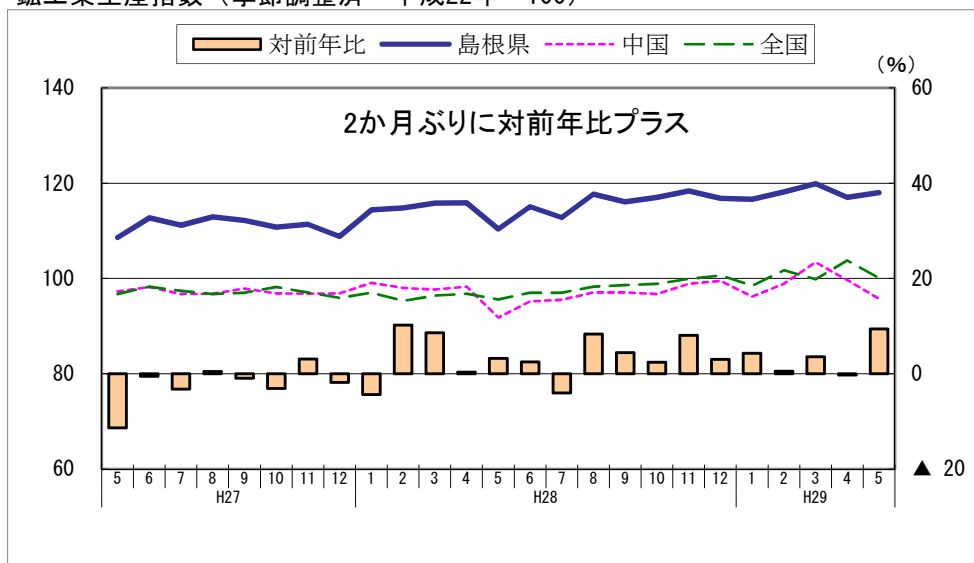
経済動向に関する他機関の公表資料（抜粋）

全 国	「月例経済報告（内閣府）」平成29年7月19日											
	<p>景気は、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人消費は、緩やかに持ち直している。 ・ 設備投資は、持ち直している。 ・ 輸出は、持ち直している。 ・ 生産は、持ち直している。 ・ 企業収益は、改善している。企業の業況判断は、改善している。 ・ 雇用情勢は、改善している。 ・ 消費者物価は、横ばいとなっている。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>											
中 国 地 方	「中国地域の経済動向（中国経済産業局）」 平成29年7月11日											
	<p>～ 緩やかな持ち直しの動き ～</p> <p>中国地域の経済は、生産は弱含みであるものの、個人消費は緩やかな持ち直しの動き、雇用や設備投資に良い動きがみられるなど緩やかな持ち直しの動きとなっている。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 生産動向 …弱含み</td> <td>7. 企業倒産 …件数、負債額ともに減少</td> </tr> <tr> <td>2. 景況感 …現状、先行きともに上昇</td> <td>8. 貿易 …輸出、輸入ともに増加</td> </tr> <tr> <td>3. 個人消費 …緩やかな持ち直しの動き</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 雇用・賃金…有効求人倍率は横ばい、賃金は増加</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 設備投資 …前年度を上回る見込み</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 建設動向 …公共工事は減少、住宅建設は増加</td> <td></td> </tr> </table>	1. 生産動向 …弱含み	7. 企業倒産 …件数、負債額ともに減少	2. 景況感 …現状、先行きともに上昇	8. 貿易 …輸出、輸入ともに増加	3. 個人消費 …緩やかな持ち直しの動き		4. 雇用・賃金…有効求人倍率は横ばい、賃金は増加		5. 設備投資 …前年度を上回る見込み		6. 建設動向 …公共工事は減少、住宅建設は増加
1. 生産動向 …弱含み	7. 企業倒産 …件数、負債額ともに減少											
2. 景況感 …現状、先行きともに上昇	8. 貿易 …輸出、輸入ともに増加											
3. 個人消費 …緩やかな持ち直しの動き												
4. 雇用・賃金…有効求人倍率は横ばい、賃金は増加												
5. 設備投資 …前年度を上回る見込み												
6. 建設動向 …公共工事は減少、住宅建設は増加												
山 陰 地 方	「山陰の金融経済動向（日本銀行松江支店）」 2017年8月1日											
	<p>山陰の景気は、緩やかな回復を続けている。最終需要をみると、個人消費は、勢いを欠く面もみられるが、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、底堅い動きに拡がりが見られている。住宅投資は、高水準となっている。公共投資は、持ち直しの動きが一服している。設備投資は、企業収益が高めの水準で推移するもとの、増加している。こうした需要動向のもとで、生産は、緩やかな増加基調にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人消費は、勢いを欠く面もみられるが、底堅い動きに拡がりが見られている。 ・ 住宅投資は、高水準となっている。 ・ 設備投資は、企業収益が高めの水準で推移するもとの、増加している。 ・ 公共投資は、持ち直しの動きが一服している。 ・ 生産は、緩やかな増加基調にある。 ・ 雇用・所得環境は、着実に改善している。 											
山 陰 地 方	「山陰経済動向（山陰経済経営研究所）」 2017年7月31日											
	<p>生産活動に持ち直しの動きがうかがわれるなかで、設備投資の増勢は一様ではないものの、個人消費に耐久消費財を中心とした持ち直しの動きがみられ、雇用情勢が改善傾向にあるなど、基調としては緩やかに持ち直している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共投資は、持ち直しの動きがみられる。 ・ 設備投資は、2017年度は、非製造業で前年度を下回るものの、製造業では前年度を上回り、全産業でも前年度を上回る計画（日銀短観6月の全産業設備投資額は、2016年度実績対前年度比2.4%増、2017年度計画同5.1%増）。 ・ 住宅建設は、持ち直しの動きに陰りがみられる。 ・ 個人消費は、耐久消費財では持ち直しの動きがみられる。 ・ 生産は、海外景気の緩やかな回復や競争力の高さなどを背景に一部では高水準の操業が続く業種がみられ、総じて持ち直しの動きがうかがわれる。 ・ 雇用情勢は、引き続き改善している。 ・ 企業の業況判断は、足元、製造業は悪化したものの、非製造業では改善し、全産業でも改善となった（前回4→今回9）。先行きについては、製造業で横ばい、非製造業で悪化を見込んでおり、全産業では悪化の見通しとなっている（日銀短観6月調査）。 											
島 根 県	「島根県の経済情勢（財務省松江財務事務所）」平成29年8月1日（四半期ごとに公表）											
	<p>県内経済は、持ち直している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人消費 緩やかに持ち直している ・ 生産活動 緩やかに回復しつつある ・ 雇用情勢 改善しており、人手不足感が広がっている ・ 公共事業 前年度を下回る ・ 設備投資 平成29年度は前年度を上回る見通し ・ 企業収益 平成29年度は増益見通し 											

経済指標の推移

【 生産活動 】 ～持ち直しの動き～

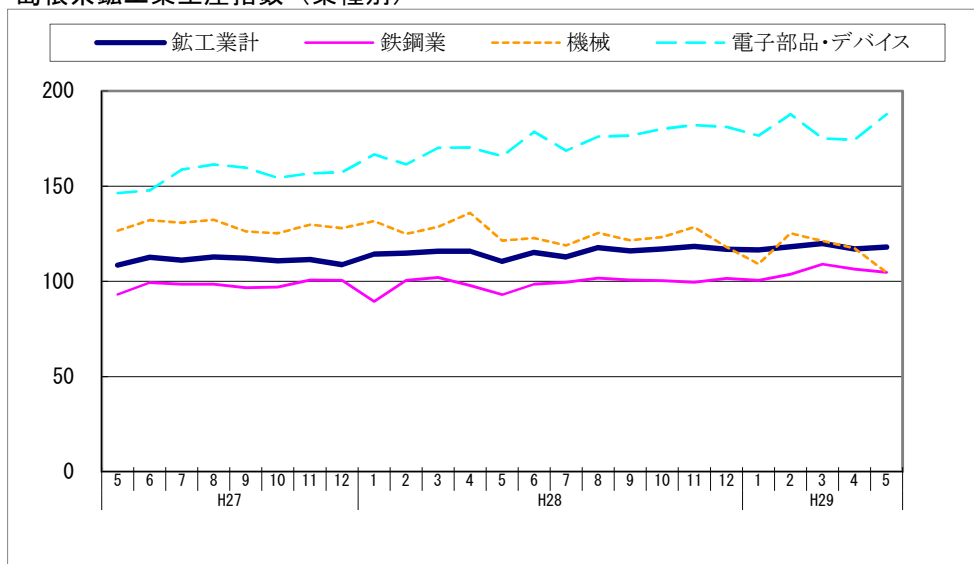
鉱工業生産指数（季節調整済 平成22年=100）



(注) 対前年比は、島根県の原指数

(県統計調査課、経済産業省)

島根県鉱工業生産指数（業種別）

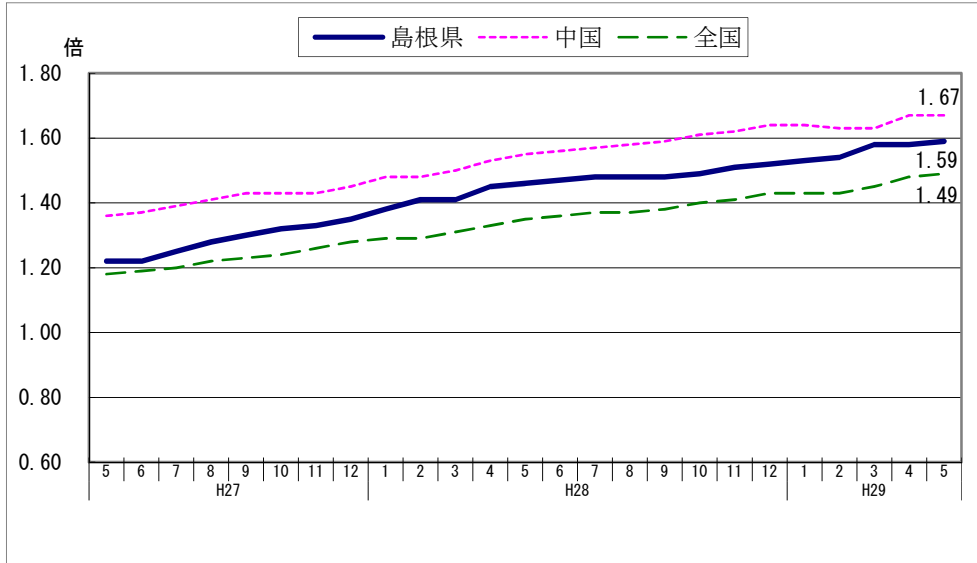


(注) 機械とは、はん用・生産用・業務用機械工業である

(県統計調査課)

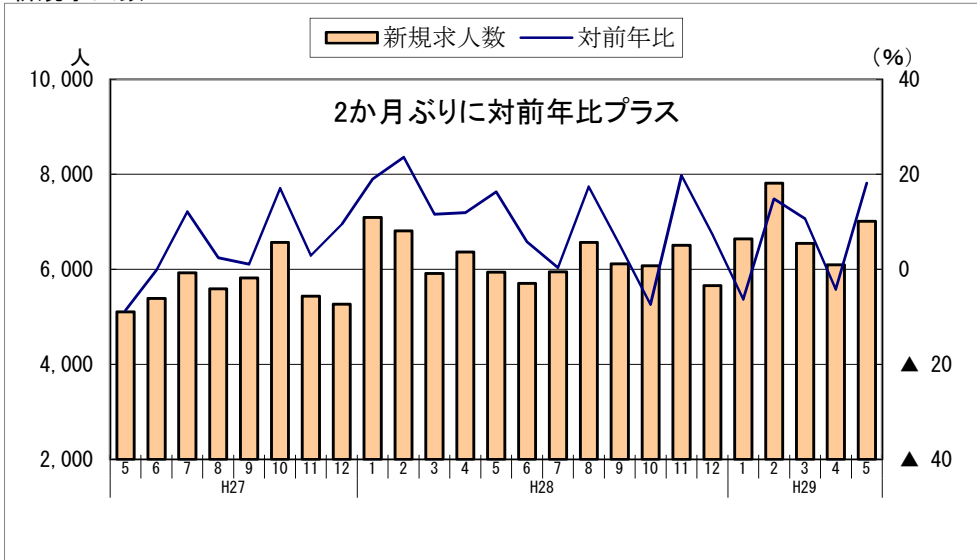
【 雇用情勢 】 ～改善の動き～

有効求人倍率（学卒を除き、パートを含む）



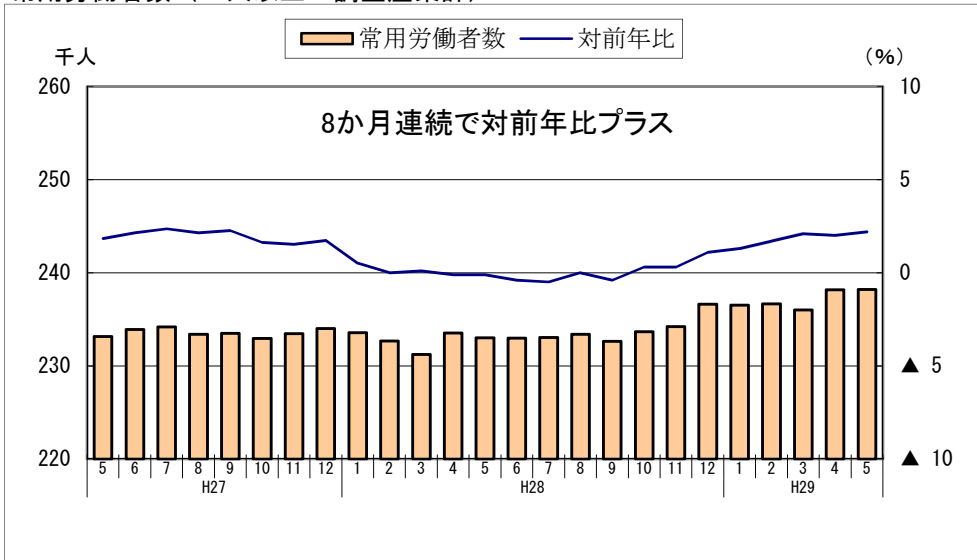
(厚生労働省)

新規求人数



(島根労働局)

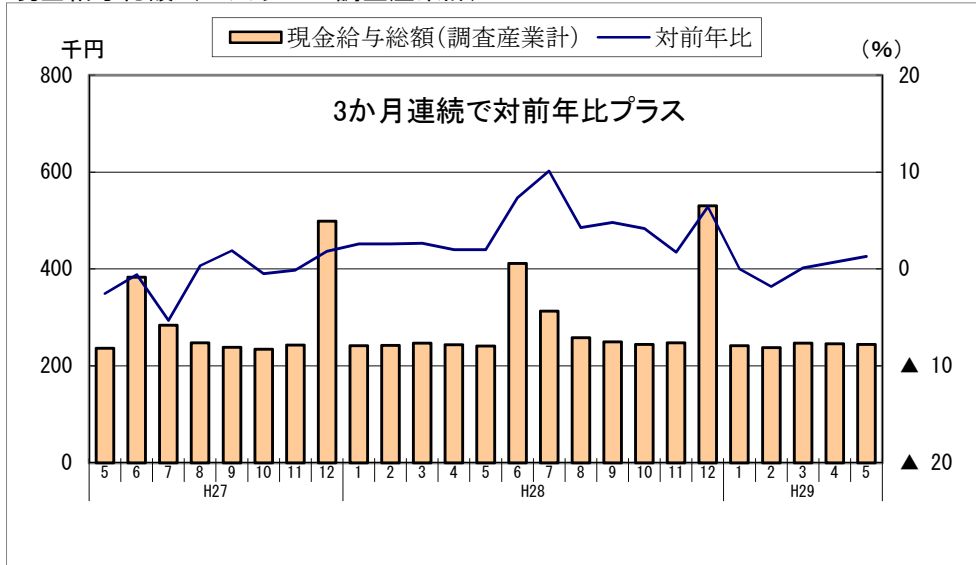
常用労働者数（5人以上・調査産業計）



(県統計調査課)

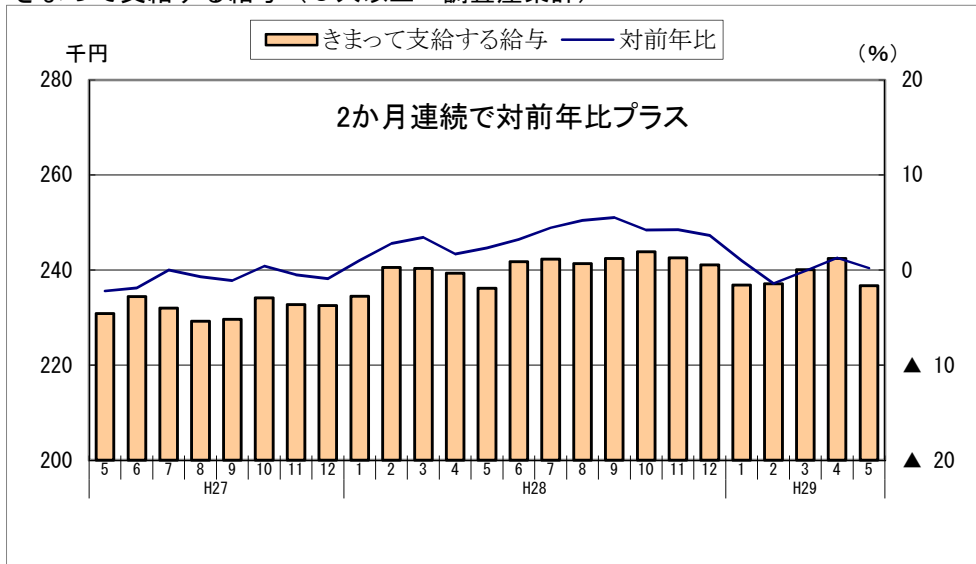
【 雇用情勢 】 ～改善の動き～

現金給与総額（5人以上・調査産業計）



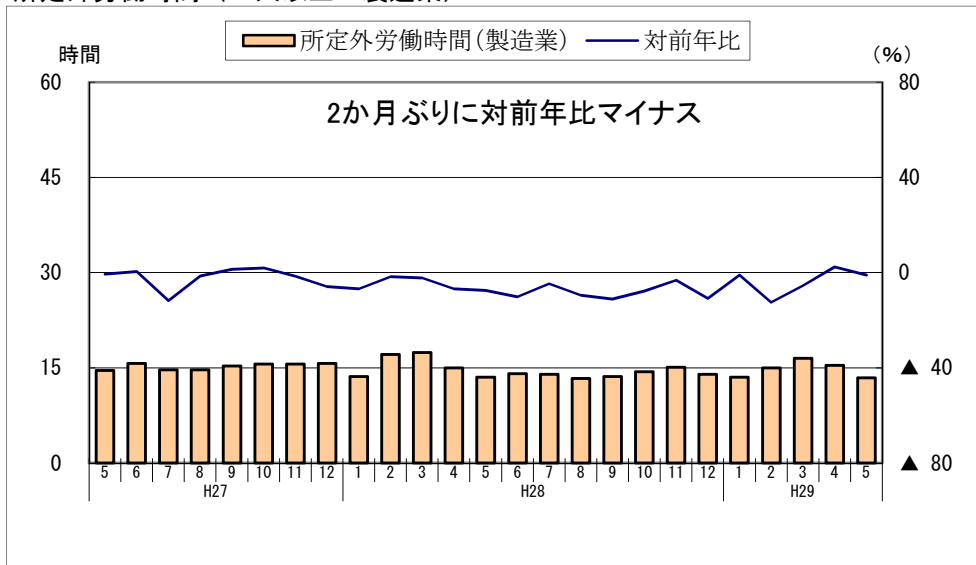
(県統計調査課)

きまって支給する給与（5人以上・調査産業計）



(県統計調査課)

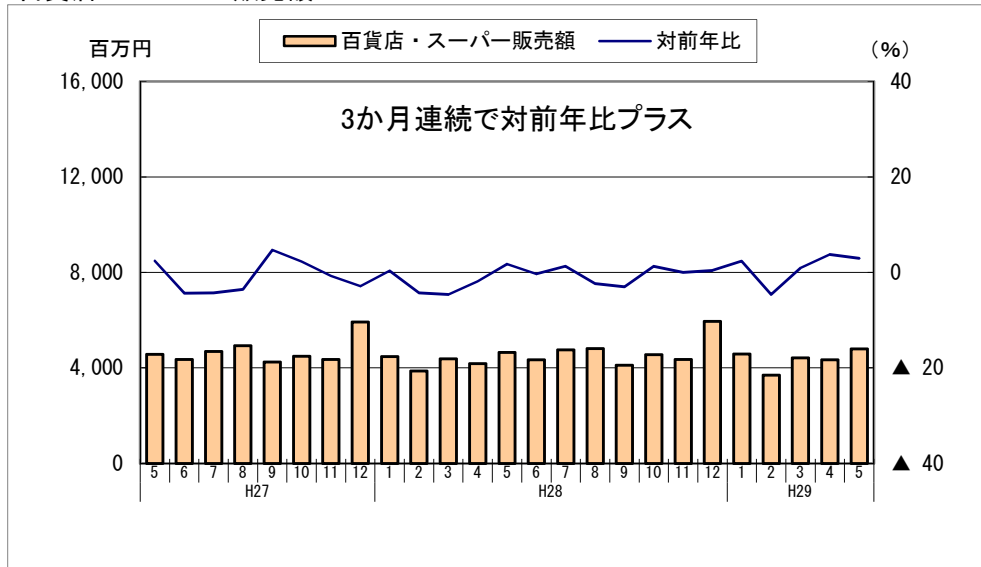
所定外労働時間（5人以上・製造業）



(県統計調査課)

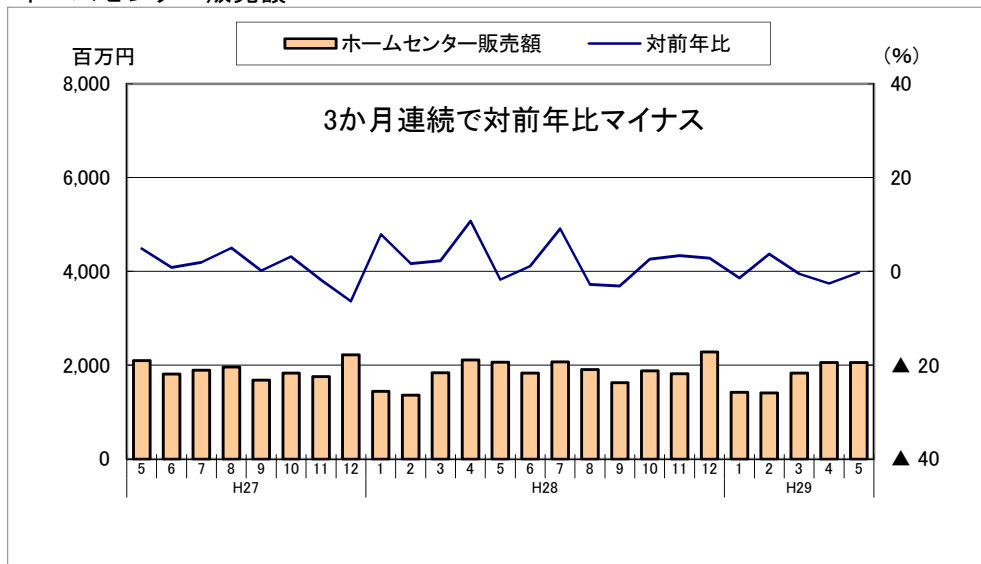
【 個人消費 】 ～持ち直しの動き～

百貨店・スーパー販売額



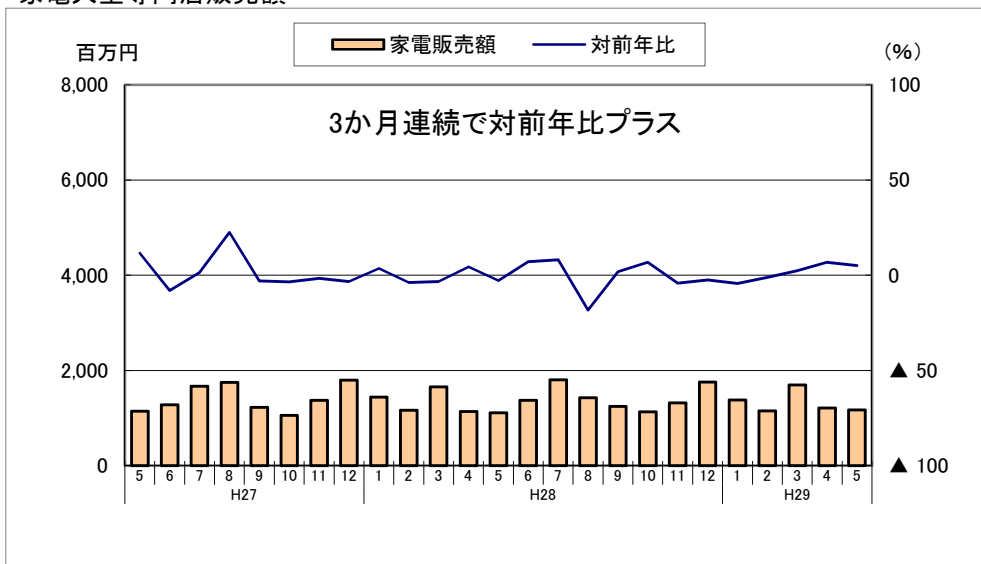
(中国経済産業局)

ホームセンター販売額



(中国経済産業局)

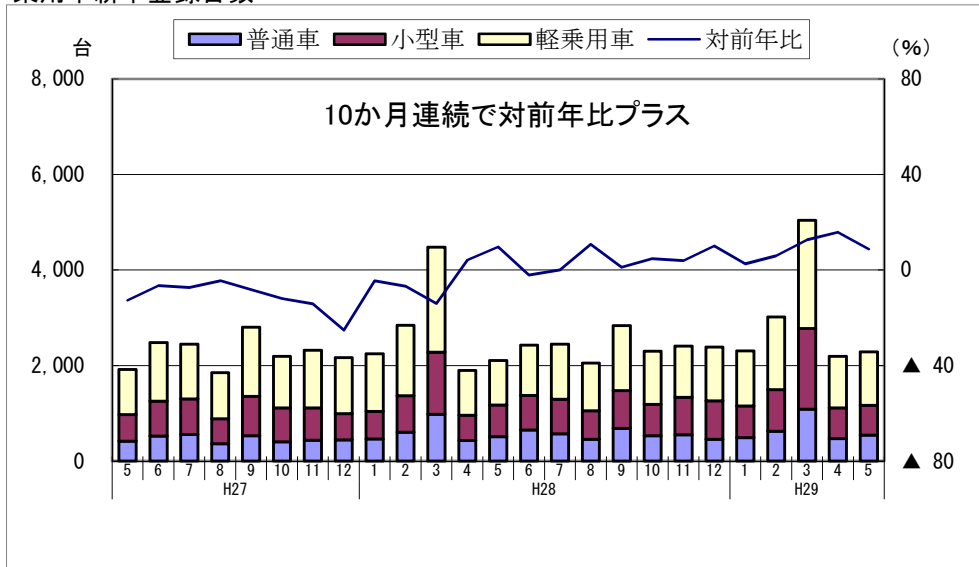
家電大型専門店販売額



(中国経済産業局)

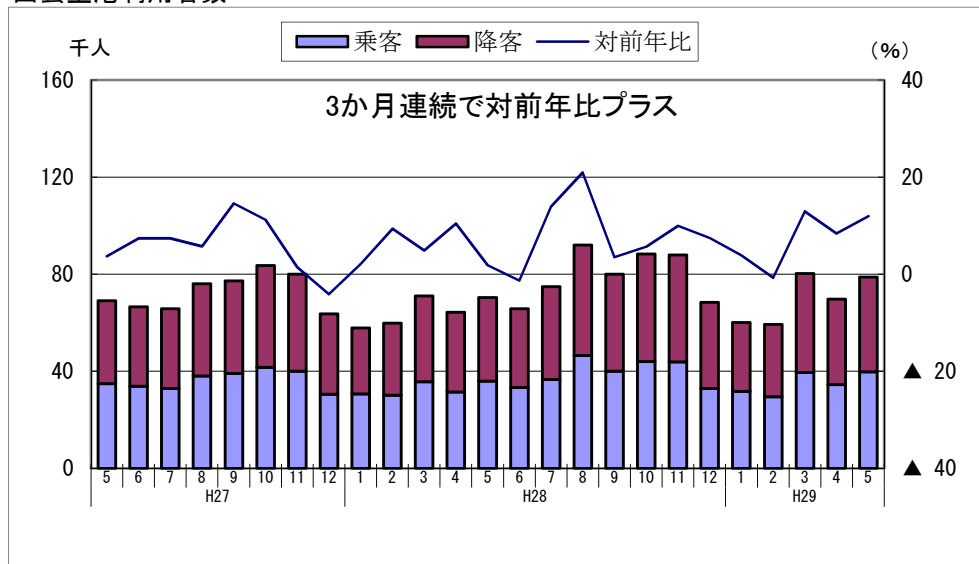
【 個人消費 】 ～持ち直しの動き～

乗用車新車登録台数



(中国運輸局)

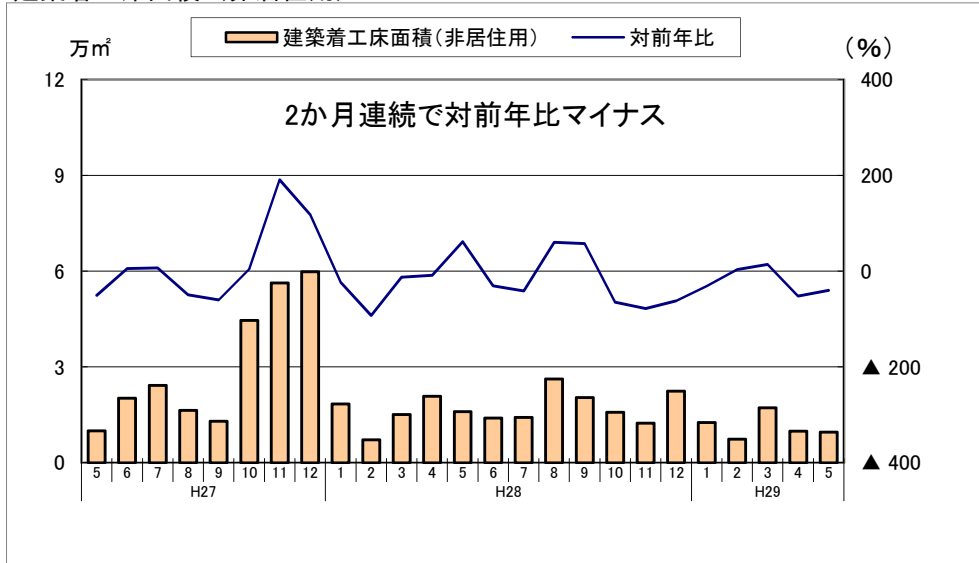
出雲空港利用者数



(県港湾空港課)

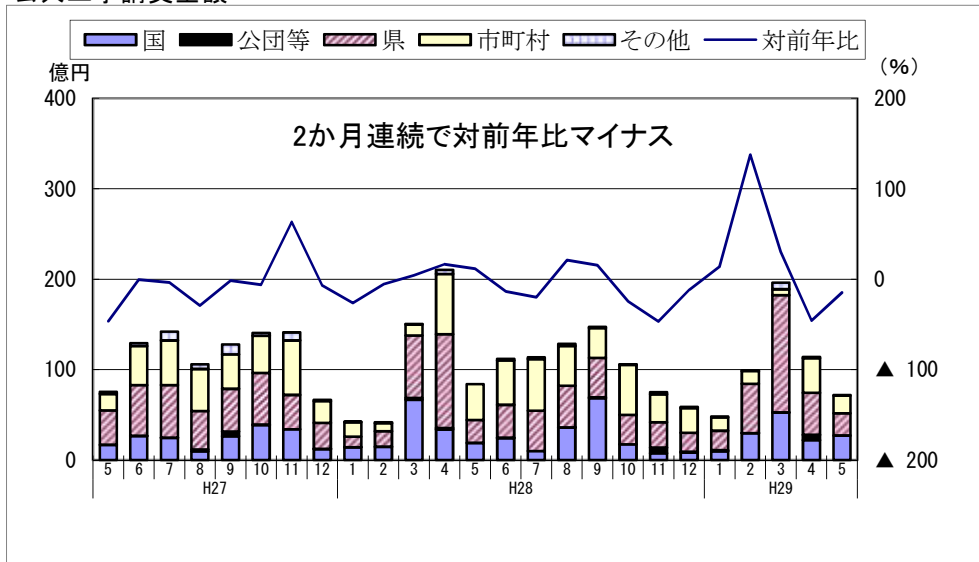
【 投資動向 】 ～持ち直しに弱い動き～

建築着工床面積（非居住用）



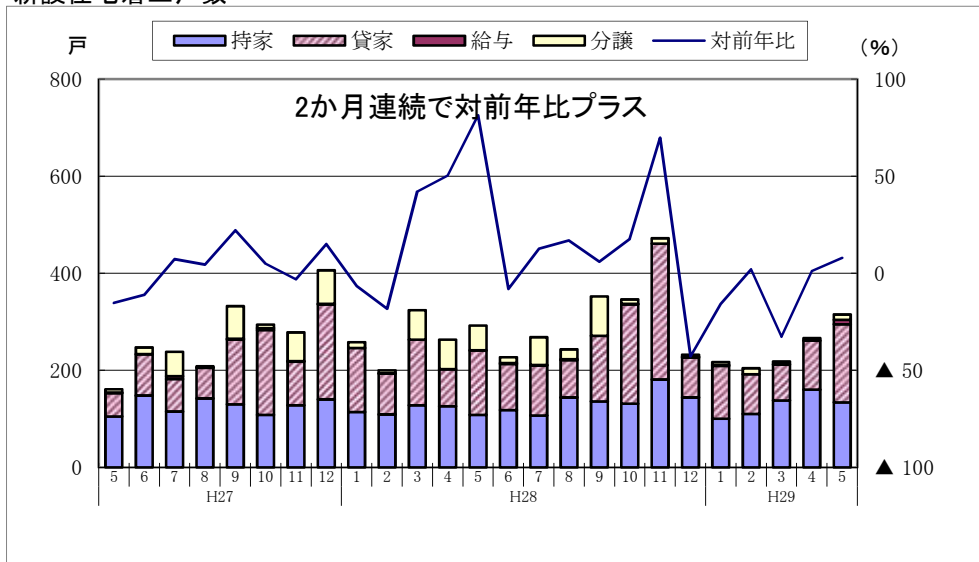
(国土交通省)

公共工事請負金額



(西日本建設業保証株式会社)

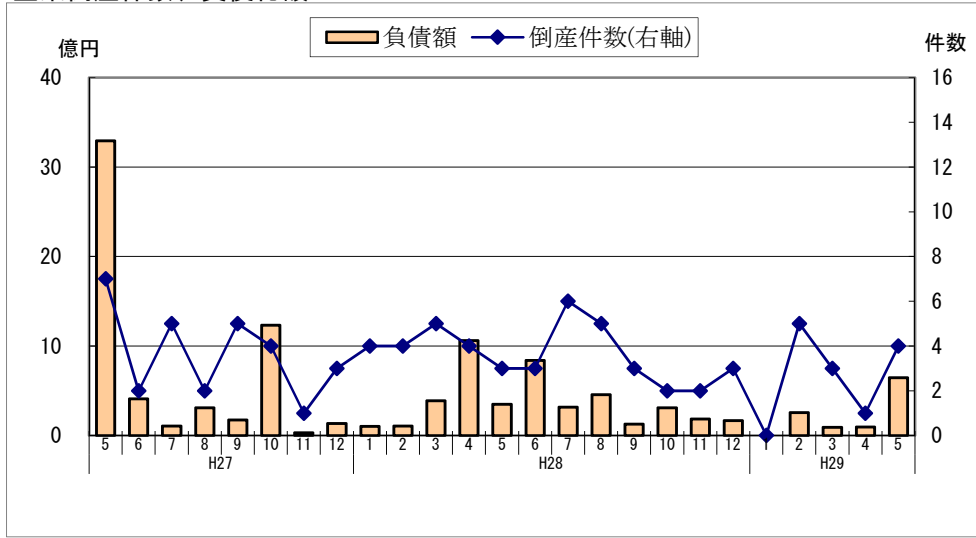
新設住宅着工戸数



(国土交通省)

【 企業倒産 】 ～倒産件数 4 件～

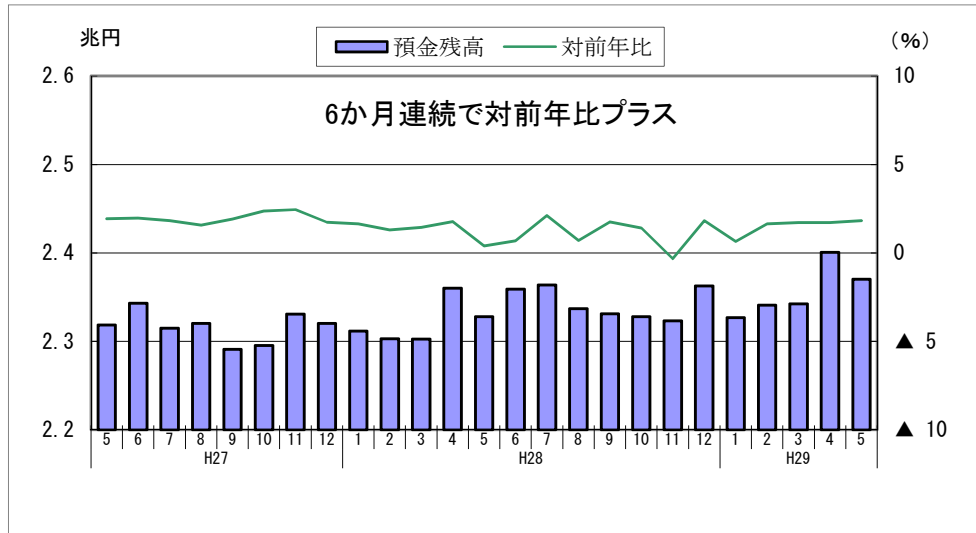
企業倒産件数、負債総額



(株)東京商工リサーチ

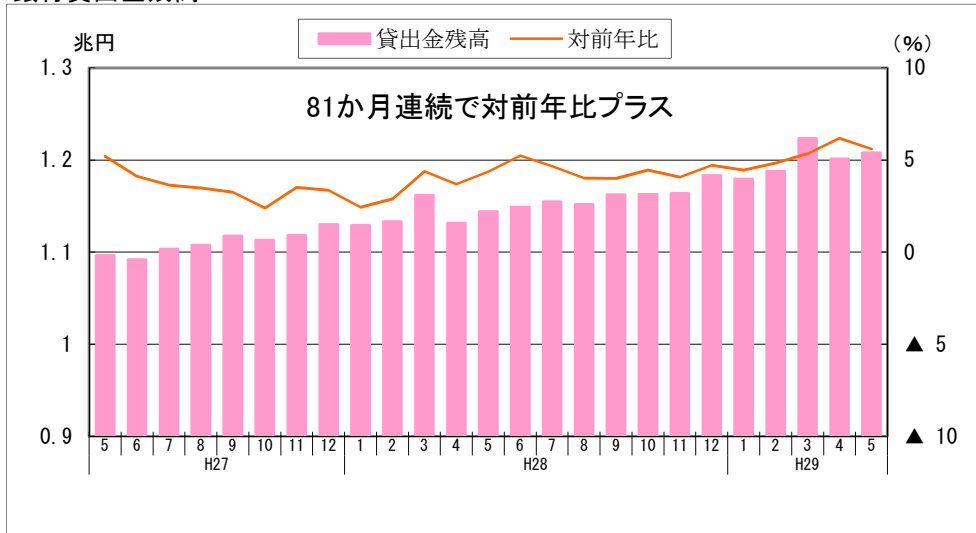
【 金融情勢 】 ～貸出金残高は対前年5.6%増～

銀行預金残高



(日本銀行)

銀行貸出金残高

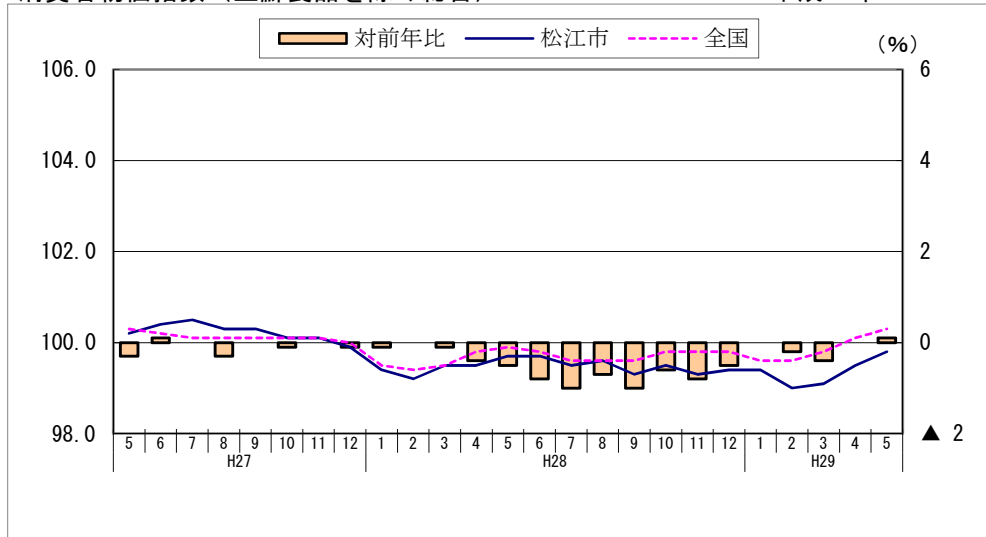


(日本銀行)

【物 価】 ～対前年0.1%上昇～

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）

平成27年＝100

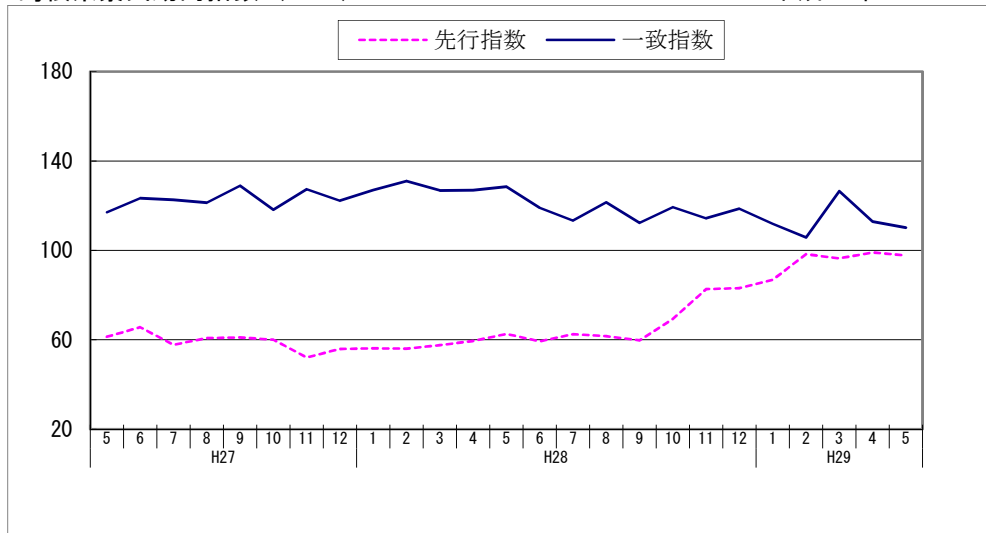


(総務省統計局)

その他(参考)

島根県景気動向指数 (C I)

平成22年＝100



(県統計調査課)

法人企業景気予測調査結果 (平成29年6月13日 財務省松江財務事務所)
平成29年4～6月期調査

景況判断BSI

(BSI：前期比判断「上昇」－「下降」社数構成比)

(%ポイント)

区 分	29年1～3月 前回調査	29年4～6月 今回調査	29年7～9月 見 通 し	29年10～12月 見 通 し
全 産 業	▲ 21.5	(0.9) ▲ 2.8	(▲7.5) 9.3	6.5
製 造 業	▲ 10.3	(▲7.7) ▲ 2.5	(▲10.3) 17.5	10.0
非製造業	▲ 27.9	(5.9) ▲ 2.9	(▲5.9) 4.4	4.4
大 企 業	0.0	(12.5) 12.5	(▲12.5) 0.0	12.5
中堅企業	▲ 27.9	(▲2.3) ▲ 10.0	(▲9.3) 12.5	7.5
中小企業	▲ 19.6	(1.8) 0.0	(▲5.4) 8.3	5.0

※ () 書きは、前回 (29年1～3月期) 調査時の見通し